

**田中**——「ぴよすくーぼん」は使い方の制限が多くて買えるものが限られていたのですが、最近使えるものの対象を広げて、使いやすくなったようです。医療費は、子どもが元氣過ぎてケガをして病院に行く機会が多いので有り難いです。給食費も助かっています。

**司会**——南部町では令和2年度（2020）から、妊娠から子育てまでワンストップで支援する子育て世代包括支援センター「ぴよすくー」を開設しています。

**高木**——乳幼児教育は重要です。そういう意味で「ぴよすくー」はいい試みだと思います。

**田村**——子育てのことを気軽に相談できる窓口とか、子どもを安心して遊ばせる場所があっても、24時間開いているわけではないので、自分たちが困った時に頼れるオープンな場所があるとうれしいですね。ちゃんとした場所じゃなくていいので、いつでも好きに遊んでいい場所がいっぱいあったら、伸び伸び育児できるんじゃないかと思います。

**司会**——三戸駅前のカフェ「南部どき」には、オーナーの根市大樹さんの考えで、2階に広いキッズスペースがあります。絵本なども置いてあり、地域住民に開放しているそうです。

**田中**——昨年度の南部町移住者受入協議会の最後に出た話題なのですが、こういうことがあったら面白いのに、とか、町の中

でこういう機会があればいいなと思っていても、場所を用意することがハードルになっていて、それなりに人が集まれる場所を借りるとなると、そのお金は誰が出すかという話になるんです。そこを乗り越えられれば、身の部分でやってみたいことが結構いろいろあります。そこを役場の方にちよつと手伝ってもらって、この助成金を使えるよとか、ポケットマネーを出さずにやりたいことがやれるようになったら、選択肢が増えます。役場の方からは「役場をうまく使ってくださいね」と言われて、今後の展望が見えつつあるねと夫婦で話していました。



田植え途中の田んぼの前で、夫・長男・母・祖父と一緒に

## ライフスタイルについて

**司会**——高木さんは、農福連携について考えはありますか。

**高木**——うちはそんなに土地があるわけではないですが、農地を維持していくことは大事なことで、福祉の力を借りるのは一つの方法だと思います。「まめきち自然農縁」の今後としては、手に負える範囲で、もう少し整理していくことが一つと、ホームステイを柱として大きくしていきたいです。

**司会**——田中さんは大学でアートを用的にたまちづくりを学んだそうですね。

**田中**——「アーティスト・イン・レジデンス」といわれる事業なのですが、アーティストが滞在できる拠点づくりやその運営を学生時代にやらせてもらっていました。外から人を呼んで、変わったことをしてもらって、地元子どもたちにもこういう世界があるんだとか、普段とちよつと違う文化的な体験をさせたり、地域の人々が地元を再発見するきっかけをつくったりすることが目的でした。

**司会**——移住・定住がテーマというより、イベントですね。

**田中**——そういうイベントがあるところ、面白いことをやっているところに住みたいという人もいますから、拠点があるからと移住される方もいました。私たち夫婦には、全国を回ってそういう活動をされているアーティストを自分たちの畑に呼びたいとい



沢水を運んで長男と一緒に  
野菜に水やり

う思いがあつて、実際にやりとりもしていません。もう少し環境が整って、次のステップに行けたら、こういう面白いことがあるよと、南部町のお子さんたちに体験してもらいたいです。農業はできる時にやりつつ、町内のキーパーソンとなる人たちとつながりを持ちながら、自分のやりたいことを、外に出てやっていきたいと思っています。

**司会**—— 田村さんは自然と一体になつて農業がしたいという気持ちが強いですか。

**田村**—— 自然の中を間借りして、人として生きていくという感覚が強いです。先ほどの移住・定住の話で、人口を増加させるために町はいろいろやっていますが、最小単位は個人だと思つるので、幸せな個人が増えていけば、それに連動する人も増えてくるだろうし、単に数字を追いかけて、数字が増えればいいわけではないと思います。私の考え方として、自分自身が幸せな暮らしを追求した結果、パーマカルチャー(※5)とか自然に寄り添った暮らしに至りましたが、幸せの形は人それぞれ違うと思うので、南部町に移住してきた人が、自分なりの幸せの形を見つけて、南部町がそれを実現できる場



ゼロ・ウェイスト(ごみを出さない)の一環で、スズタケで自作した「子供竹ストロー」を使う長男

基本的にはオフグリッドのため2枚のソーラーパネルで自家発電している。後ろの自宅は廃材を利用した余一さんのセルフビルド

田村 ゆに／北海道札幌市出身。高校卒業後、東京生活を経て、平成28年(2016)南部町に移住。同町出身の夫(余一)と共に「自給自足実践フィールドうちみる」を運営。竹ストローWE Bshopをオープンする。夫と長男(2歳9カ月)の3人家族。坵渡在住。



所であつたらいいんじゃないかと思つています。

**司会**—— お子さんも自然が大好きなようですね。

**田村**—— そうですね。今のところは、この暮らしだからこそ教えられることを子どもに伝えていきたいし、自分自身も移住してきてまだそんなに経っていないので、この場所のできる学びを深めていきたいです。親として子どもに伝えるべきことを伝えた後、彼がどういう選択をしていくかは関与しないつもりです。私は都会から来て自然に寄り添った暮らしをしたいと思いますので、その逆もまたあると思いますから。

**司会**—— 武良さんはどのようにして日本語教師になられたのですか。